

TOMO2ニュース発行によせて

NPO法人 浜松外国人子ども教育支援協会
理事長 龍口伸子

NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会は「ことばの教室」時代から数えて今年で16年めを迎えました。

30～40代の女性による小さなグループが日本語指導法を学び始めたのがきっかけでした。その後、入国管理法が改正になったこともあり、急激に外国人が増え、平成5年に日本語指導を教育委員会から依頼されるようになりました。

平成18年には「カナリーニョ教室」と合併、日本語テキスト「はまっこ」も発刊いたしました。

事業は日本語教育、母国語教育、不就学対策と広範囲になってまいりましたが、昨年からの世界的な不況が子供たちの生活や学習の環境を脅かす事態となってきております。外国人学校を退学する子、教室への通学交通費にも困る子など、これにより不就学問題もより深刻になっています。

しかし、経済もこのままずっと悪いわけではないでしょう。ブラジル領事館も3月に開館します。明るい期待を持ちながらTOMO2の思い、プロフェッショナルな目と温かいボランティアの心をもって、わたしたちは、外国人子ども教育のために力を合わせていきたいと思えます。

今年度の活動

* 「はまっこ」講習会の実施

大倉玲子指導員を講師に、ボランティアで日本語を教えている方々に「はまっこ」を使った指導法を3会場で講習しました。

平成20年8月6日・7日 掛川国際交流協会
平成20年8月30日 磐田国際交流協会
平成20年12月6日・20日 浅羽南公民館

* フィリピン保護者教室

中村グレイス指導員を中心にフィリピンの人を対象として、教育、学校生活などに関する説明会が行われました。会場では、熱心な保護者の方々が集まり、質疑応答が活発に行われました。

平成20年11月23日 南部公民館

* ブラジルの児童・幼児・保護者を対象に 「親子で楽しむ会」開催

普段、仕事で忙しいお父さんやお母さんと少しでも触れ合ってもらおうと企画しました。当日は、ポルトガル語版「はらぺこあおむし」を読んだ後手遊びをして楽しい時を過ごしました。

平成21年1月24日 クリエイト浜松



